

コミュニティづくり参考資料 (560)

コミュニティ活動で 住みよい街づくり

= 街を豊かに みんなが幸せに =

川 西 市

いま、生活におけるうるおいと、ゆとり、そして人間関係
においては、連帯が重視されています。

本市においても、“街を豊かに みんなが幸せに”をモッ
トに住みよい地域社会づくりをめざし、コミュニティの推
進に取り組んでいます。

市民が相互に温かい心のふれあいの感じられ、連帯と協調
をはかり、自治意識のもとに自主的なまちづくりに取り組ん
でいかれることを願っています。

本書は、地域におけるコミュニティづくりの取組みの参考
としていただくために作成したものです。ご理解賜り、ご活
用いただきますようお願い申し上げます。

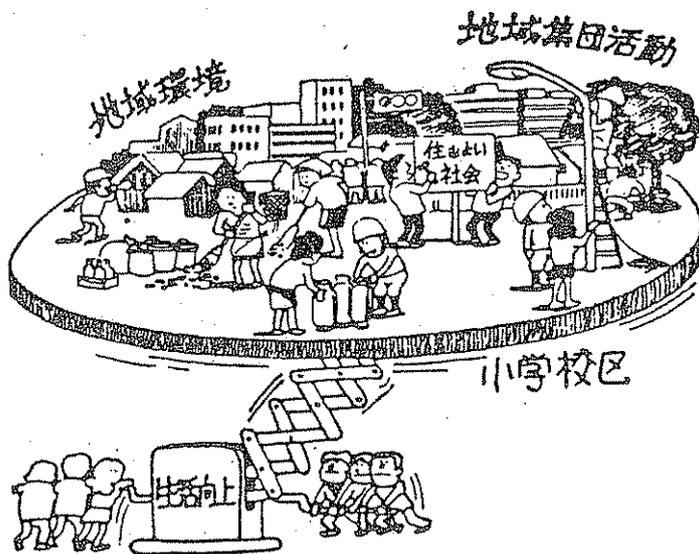
＝ 目 次 ＝

コミュニティとは	1
なぜコミュニティづくりが必要なのでしょうか	2
コミュニティづくりが叫ばれはじめた歴史的背景	3
コミュニティ組織の必要性	4
コミュニティ組織は小学校区単位で	6
コミュニティ組織の基本的形態	8
コミュニティ組織づくりの手順	10
コミュニティ組織における地域問題解決法	12
自治会活動とコミュニティ活動	14
昭和59年度川西市のコミュニティ推進施策実施予定事業概要	15

参考資料 = 小学校区図

コミュニティとは……

皆さんは『コミュニティ』という言葉聞いて、どのようなことを連想されるでしょうか？



都会の下町・ふるさとの農村集落・新しく建設された高層の住宅団地を思い浮かべる方もあるかもしれません。『コミュニティ』という言葉はもともとは社会学の概念で適当な日本語がないため、一般的には「近隣社会」・「地域共同体」などいろいろな言葉に訳されています。

川西市では『コミュニティ』という言葉直訳するのではなく、概念的にとらまえ、「住民が日常生活の場をとおして、その地域の共通の目標を持って自らの役割を認識し、“連帯と自治意識に支えられたまちづくり”を目指すまとまりのある地域社会」を『コミュニティ』と呼ぶことにしています。

なぜコミュニティづくりが必要なのでしょう

現代人の生活の場は大きく分けて三つあります。それは、家庭・職場・地域社会です。

職場は充実感を得られても心のやすらぎを満す場とは言い難く、家庭という単位ではゴミの問題や青少年の非行問題・福祉の問題など家庭へ大きな影響を及ぼす様々な問題には対処しきれません。

- 何かあった時、近所で助けあえれば
どんなに頼もしいことでしょう。
- 近隣の人たちと一緒に楽しく過ごせる機会があれば
どんなに素晴らしいことでしょう。

このように近隣に助けを求めたり、楽しみを分かちあったりする気持ちは今も昔も変わりません。しかし、その各人の気持ちは逆に、隣近所との関係が疎遠になりつつあるのが現状です。

だからこそ、失われつつある人と人との触れあい・あたたかい心の通いあう人間関係をつくり出し、"連帯と自治に支えられたまちづくり"を目指すまとまりのある地域社会をつくり出している
こうとするコミュニティづくりが必要になるのです。

コミュニティづくりが叫ばれはじめた歴史的背景

我国は明治以来、西欧社会を目標に驚異的な経済成長を遂げてきました。その過程で急激な都市化が進み、人口は都市に集中してきました。このことは、地域に旧来からあった社会秩序の崩壊の大きな要因となってきたのです。

また、第二次大戦後の民主主義・自由主義の風潮は個人の尊重や利益を守るといった点では、大きな前進をもたらしましたが、そのスピードがあまりに速く、お互いの利益を守るという前提に立った個人の利益の擁護といった点が欠落してしまい、自分の利益だけを主張するという個人主義・利己主義的な面だけが拡大されてしまっています。

このように、旧来からの社会秩序の崩壊や急激な人口の都市集中・物質的豊かさ、それに伴う価値観の多様化に個人主義・利己主義の横行があいまって、地域はギスギスしたまとまりのない社会になりつつあり、地域文化さえもが失われつつあります。

これらを背景にしてこれまでのあり方に疑問を抱いたり、新しい生き方・行動の仕方を模索するなかで、コミュニティづくりが叫ばれはじめてきました。

コミュニティ組織の必要性

従来から、市内各地においていろいろな団体が種々の活動を展開しています。しかし、これまでの活動はスポーツならスポーツだけ、環境問題ならそれだけ、またそれとは別に婦人なら婦人のみで、子供なら子供だけ、老人なら老人だけの活動にとどまり、それらが各々独自にバラバラになされているといった状況です。

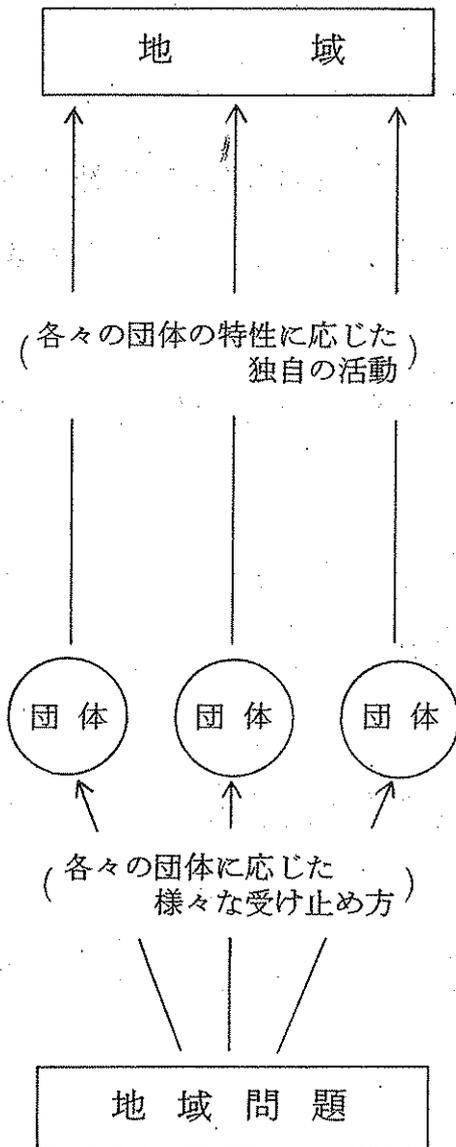
このようにバラバラに活動をしていては、現状の複雑な地域問題の解決はとうてい困難です。

地域のあらゆる人々が意見を出しあって、共に協力して問題解決へ向けて活動を展開していかねばなりません。

- 地域が一体となるためには、地域内のあらゆる活動団体と住民が結びついていく必要があります、そのためにコミュニティ組織が必要となるのです。
- コミュニティ組織は、各種団体の緊密な連携をはかり、地域住民が各種の活動に主体的に参加する場を創り出す機関であります。

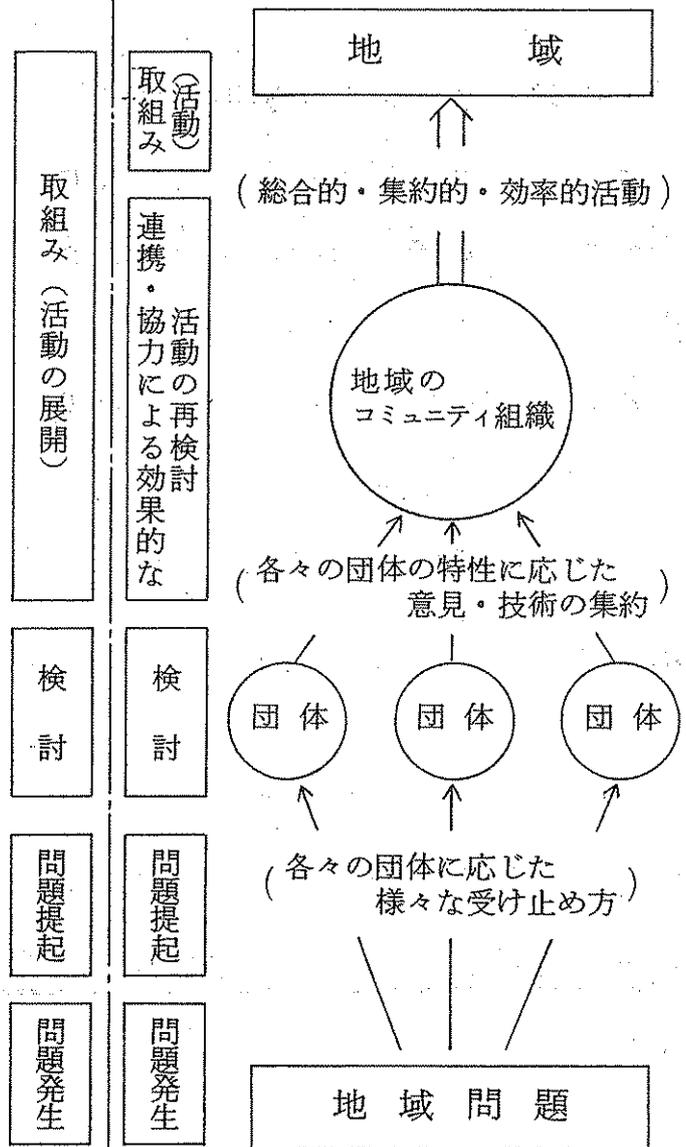
『従来の地域活動の形態』

- それぞれの団体がそれぞれ独自で活動を展開しているため、また、連携がなされないため、それぞれの活動の効果という点で弱いものとなる。



『コミュニティ組織における地域活動の形態』

- それぞれの団体が連携し、それぞれの特性・技術が生かせるため、効果的な活動が展開され、また、それにより、地域の一体感がさらに高まる。



コミュニティ活動は小学校区単位で

人と人との最も親しくつき合える範囲は、「向う三軒両隣り」といえます。しかし、これでは親しみは感じあえても地域活動をする場合は、狭くてできないでしょう。

自治会（範囲・構成人数等多少異りがあっていちがいには言えませんが）にしても、ある程度の広がりがありますが、まだまだです。

かと言って、全市を範囲に取組むとなると広すぎます。

コミュニティ活動を行っていくには、人的な資源および社会的資源の活用や情報の提供・交換がたやすくできることが大きな要素になります。

従って、親しみが感じあえ、連帯して行動できる範囲としては、小学校区が最も適当であると考えられます。

小学校区ですと、老人や子供でも参加できる距離であり、さまざまな団体が存在しており、互いにその能力を活用しあえるでしょう。

また、コミュニティづくりには、異質な人々の集団（いろいろな考えや能力を持つ人々の集団）ということと、人的・物的・組織的に自給自足でき、自主自立の活動の可能な範囲が重要になります。

川西市では、以上述べてきたことに加えて、次の状況から概ね小学校区をコミュニティの範囲としています。

- ① 小学校の体育施設等を開放していて、体育活動が盛んに行われている。
- ② 小学校区を単位に、地域の抱括的団体である自治会の連合組織が比較的多く結成されている。
- ③ 小学校区毎に市民体育祭等が開催されている。
- ④ 人口・世帯数の規模が比較的まとまりやすいものとなっている。
- ⑤ 小学校区毎に子供会の連絡がとられている。
- ⑥ P.T.Aなど、校区を範囲とした組織がある。

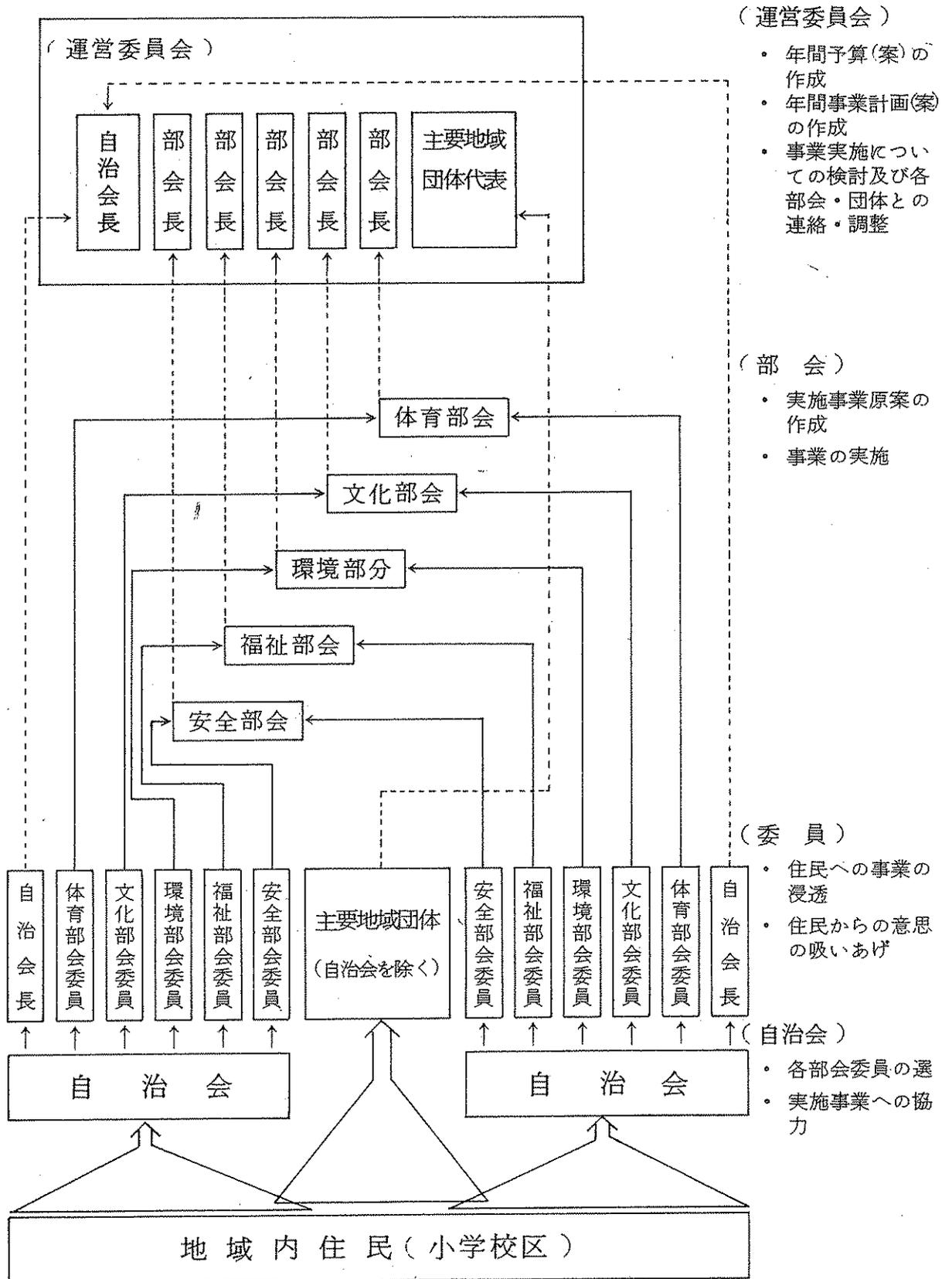
コミュニティ組織の基本的形態

コミュニティづくりへ向けては地域の各種の問題に地域が一体となつて、また、各人が主体的に取り組んでいかねばなりません。地域が一体となるには、ある一面だけをとらまえた活動だけではなく、地域が必要とする様々な活動を展開していかねばならず、連帯性を養うスポーツ・文化といった活動や自治意識を醸成する福祉・環境・安全問題に取り組む活動をすすめていかねばなりません。そしてこれらの活動を合理的に効果的に、且つレベルの高いものとしていくことが重要です。

コミュニティ組織は、その地域の住民の方々の最終的なよりどころとなる組織であり、行政と住民との役割分担を理解したうえで、自治意識に基づき、地域のあらゆる問題に対処していけるものでなくてはなりません。そのためにも、組織形態を合理的に整え、地域づくりをすすめていくとともに、その中に組み込まれた全市的な各種団体を通じて他の地域のコミュニティ組織とのつながりを維持していくことも大切です。

以上の点を考えていけば、コミュニティ組織の基本的組織形態は、次ページのとおりとなります。

＝ 地域が一体となったコミュニティ組織例 ＝



コミュニティ組織づくりの手順

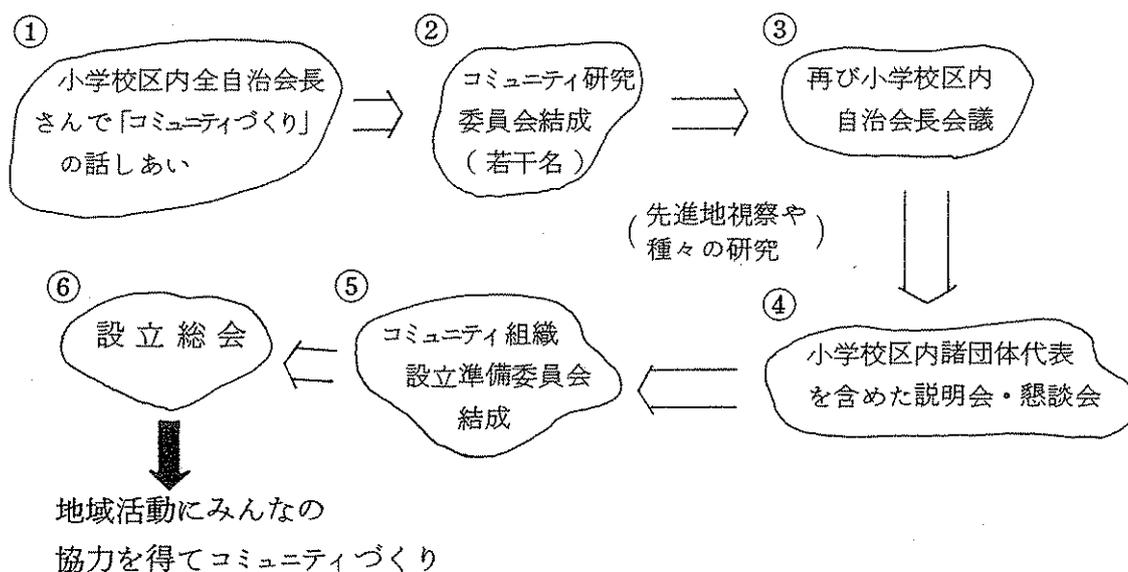
コミュニティづくりは、行政だけがいくら一生懸命取組んでみてもできるものではありません。コミュニティづくりの主役はあくまで住民の皆さんで、住民の方々の熱意が最も重要なものだからです。即ち、地域の人々の自発性と共同性に支えられるものでなければなりません。

このように、コミュニティづくりをすすめるためのコミュニティ組織も住民の方々の発意によって組織されるものでなくては真に地域のための組織とは言えません。

地域には、各々の地域の抱括的団体として自治会があります。コミュニティづくりは、自治会を無視してはできず、むしろ自治会が中心になってすすめていく必要があります。そこで、まず小学校区内の全自治会長さん方でコミュニティづくりについて話しあってください。その中で話し合いが煮詰まっていけばコミュニティ研究委員会を結成される必要があるでしょう。これはその地域に合ったコミュニティづくりを考えていくためです。この研究委員会で先進地視察を含め、種々検討を重ねてコミュニティづくりへ取組む方針やそのための組織の原案を作成します。この原案をもとに、再び校区内自治会長会議を開いて取り組みを決定していきます。この段階の次には、地域のより一層の一体化のため地域内各種団体へ呼びかけ、その代表者を含めて説明会・懇談会を

開き、地域のコミュニティづくりへあい協力して取組むことの意思統一をはかります。この後、コミュニティ組織設立準備委員会⑤を組織します。この準備委員会では、会則案の作成・委員の選出等発足の準備を行います。そして準備完了後、設立総会⑥を開催して発足するということになります。

コミュニティ組織を結成していくには、こういった段階を順次踏んでいく必要があります。時間はかかりますが、時間をかけて多くの段階を踏んでいくことによって、地域の盛りあがり生まれ、一体感はさらに強いものとなっていくでしょう。



コミュニティ組織における地域問題解決法

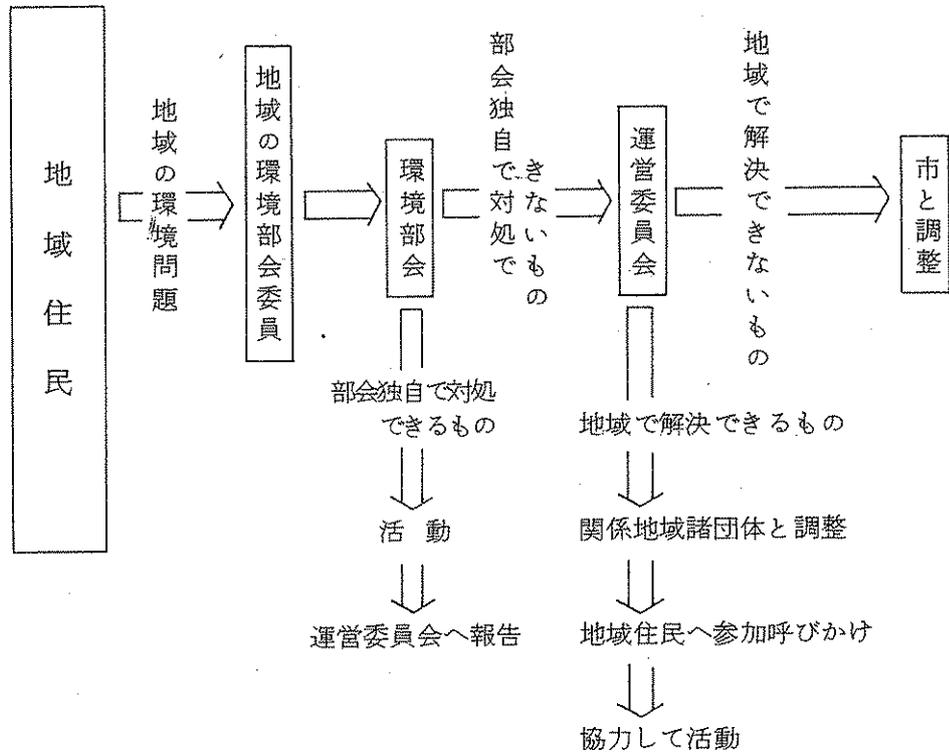
“地域のことは自治会長さんにまかせておけば良い”といった意識が住民の方々にはないでしょうか。

- 地域の様々な多くの問題を自治会長さん一人にまかされると、自治会長さんはそれらに忙殺され、地域を総括的にお世話するという本来の仕事が果せなくなります。こうした点からもコミュニティづくりが必要と考えられるところです。
- コミュニティづくりには、住民の一人ひとりが地域へ果たせる役割意識と責任感を持っていることが大事です。このことから地域のそれぞれの種類の問題に応じて対応していく役割が必要になるのです。
- 前述のコミュニティ組織の基本的形態でも以上の点を重要に考えているわけです。そして、基本的形態の組織で問題解決を図っていくとすれば、その手順は次ページのとおりとなります。

このようにして、出来るだけ自分達の手で問題解決していくことによって、地域における自治意識・連帯感がさらに高揚されていくのです。

また、この役割分担によって将来の地域リーダーの発掘・養成も行えることにもなるのです。

＝ 地域問題解決例 ＝



※ 環境問題を例として図案化しましたが、他の部会の活動経路も同様です。

自治会活動とコミュニティ活動

現在、自治会は、地域住民の任意団体として結成され、その地域範囲・構成員数などさまざまですが、一般的には狭い範囲となっています。そして、その活動も環境整備といった活動にも取り組んではおられるものの、より広い地域との関連性及び他団体との連携ということになれば薄いと言わざるを得ません。

従って、大きな視野に立った地域づくりのための活動という点については、一自治会のみでは困難な状況にあります。

多くの自治会の活動は、会員の親睦・冠婚葬祭時の相互扶助的なものが主体となっています。これらもコミュニティ活動の一つの基本的なものではありますが、これらを継続しながら、より大きな範囲で、計画性のある環境整備・地域の安全問題・より多くの人々の力の結集によってしか成し得ない福祉活動を実施し、地域づくり・街づくりへ向け、地域住民の連帯意識・自治意識をはぐくみ、地域が一体となっていくための活動をコミュニティ活動と呼んでいます。

意識啓発活動

(1) 広報紙による情報提供

- ① 「コミュニティ活動で住み良い街づくり」欄を継続し、
その中でコミュニティ・リーダー養成講座・コミュニティ
づくり講演会内容及び一連の啓発記事を掲載する。
- ② この他にコミュニティ特集号を企画し、本市のコミュニ
ティ推進への取組み及び現状を認識願う。

(2) コミュニティづくり講演会

この講演会は、地域の一般住民・諸団体参画者の方々に、
「コミュニティとは何か」・「コミュニティづくりの必要性」
等を理解願ひ、本市におけるコミュニティ推進の基礎づくり
ということで実施するものである。例年通り小学校区を基礎
として、また地域の状況を勘案し、コミュニティ組織のない
地域を巡回して実施する。

なお、この講演会は、専門機関へ委託して行うもので、開
催時期は次のとおりとする。

☆ 開催時期 昭和59年9月中旬～10月末

リーダー養成

(1) カリキュラム方式によるリーダー養成講座の開設

昭和57年度に第1回目の講座を開設したのであるが、地域においてはこのような意識・技術を修得したリーダーの絶対数は必ずしも十分なものでなく、さらに充実させていく必要がある。このことから本年度においても開催するものであり、そのカリキュラム内容も昨年度に準じた実践的なものとする。

また、すでに地域に存在する各種団体でリーダーの役割を担っている方々に参加していただくことが、当講座開設による効果という点で好結果が予測されるため、各種団体事務局所管課からの各団体への参加要請を依頼し、そのうえにたった受講者募集を行っていく。

なお、開設日時は、次のとおりとする。

☆ 開設日 4回のカリキュラムで行います。

第一日目 昭和59年6月15日(金)

第二日目 " 6月22日(金)

第三日目 " 6月29日(金)

第四日目 " 7月6日(金)

時間はいつでも午後7時～9時30分

☆ 開設場所 川西市中央公民館

コミュニティ組織づくり

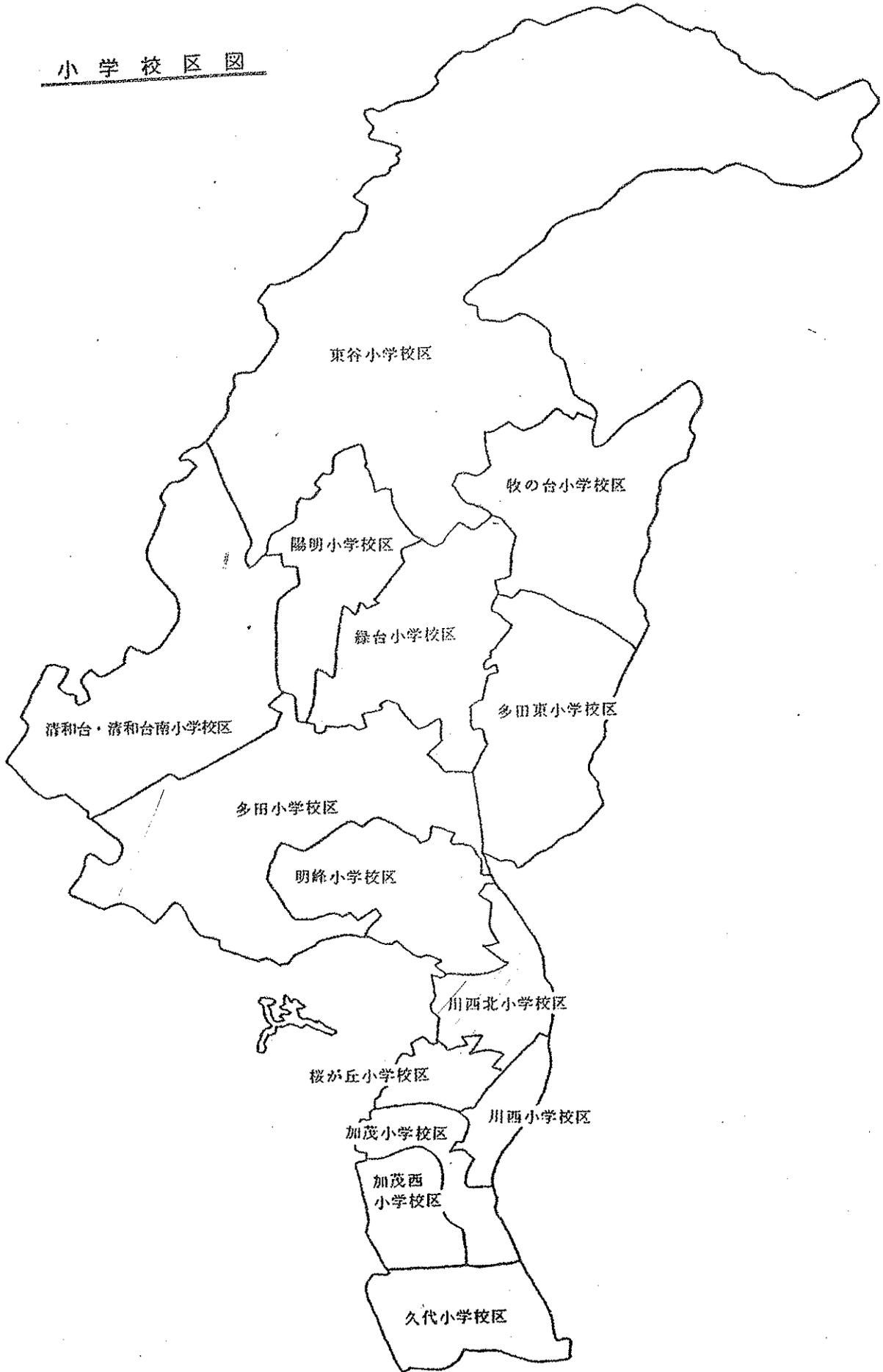
地域において自主的かつ円滑・効果的な活動が継続的に実施されるよう地域におけるコミュニティ組織づくりを推進する。

また、コミュニティ組織結成へ住民の盛りあがりのある地域については、重点指導を実施する。

コミュニティ組織の育成

地域づくりの目的達成へ向け、地域組織がコミュニティ性の高揚に主眼がおかれた組織となるよう、その育成をはかるとともに、川西市コミュニティ組織活動育成補助金の交付要綱に基づき、コミュニティ組織に対して補助金を交付する。

小 学 校 区 図



コミュニティづくりのご相談はお気軽に!!

自治振興では、コミュニティづくりの市の窓口として、
いつでもご相談をお受けしています。

川西市市長公室自治振興課

電話 59-3661 (内線 201)

S-60